

靱性モルタルキーパー

法面靱性モルタル表面保護工法

近年各地で、既設吹付け法面の補修要望が高まっています。靱性モルタル表面保護工法は、災害予防を目的とした法面再生を図る工法です。



株式会社デーロス・ジャパン

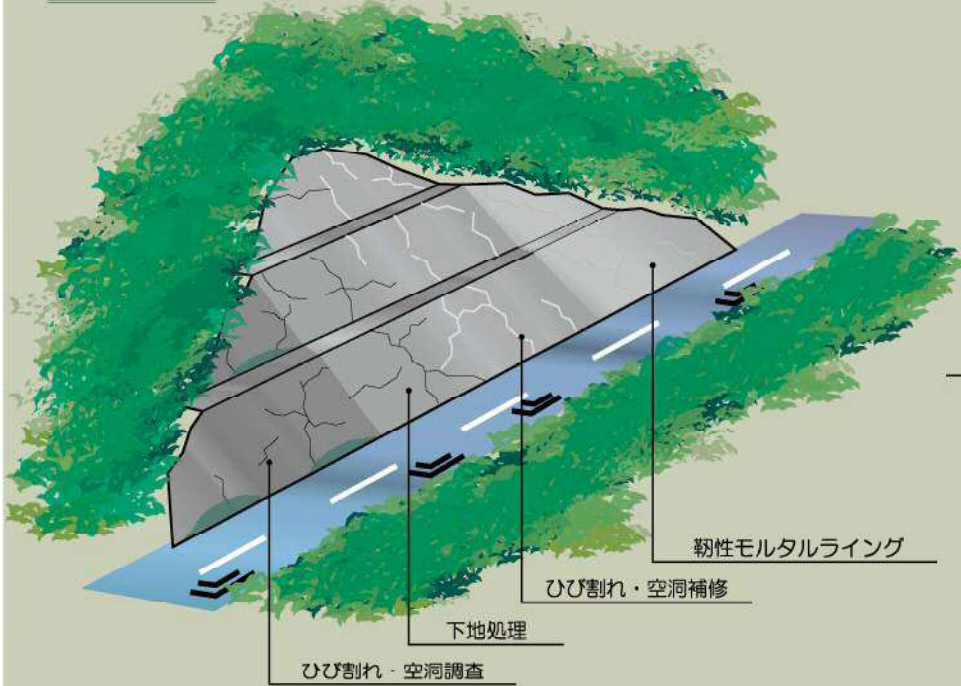
法面靱性モルタル表面保護工法とは

特殊ポリマーセメントモルタルにビニロン繊維等を混合して作った材料（靱性モルタル）で既設法面のひび割れ部と表面を補修する工法です。

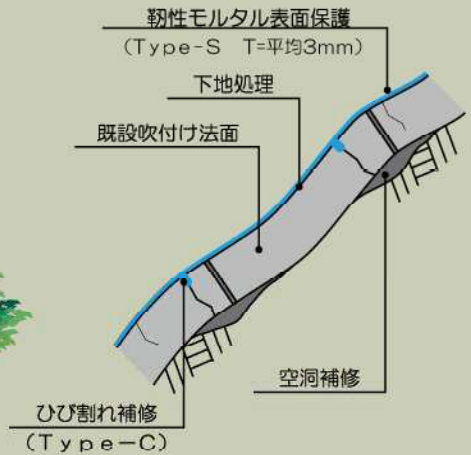
靱性モルタルは、付着性、伸縮性、曲げ剛性等に優れているうえに、高い耐久性を有する不燃性無機系の材料です。

構造的にも、靱性モルタルをひび割れ部へ充填、表面に平均3mm（ $t=2\sim 4\text{mm}$ ）厚で吹付けるといったシンプルな構造です。

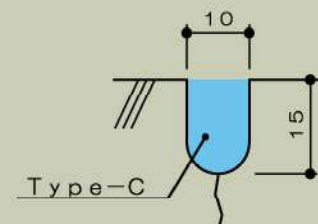
補修イメージ図



標準断面図
no scale



ひび割れ補修 参考図
no scale



法面靱性モルタル表面保護工法の特徴

優れたひび割れ抵抗性

引張終局ひずみ0.1%以上の性能を実現したことで、従来ポリマーセメントモルタルと比べ、ひび割れ抵抗性に優れた材料です。

既設法面安定性

吹付け厚さ（ $T=平均3\text{mm}$ ）が薄く、単位体積重量も軽いため、既設法面の死荷重を増大させることなく表面保護が図れます。

工期短縮

既設構造物を残したまま施工できる工法で、下地処理、ひび割れ補修・空洞充填後に吹付けするシンプルな施工で工期短縮が図れます。

経済性

既設構造物の取壊し作業もなく、大掛かりな仮設、機材を必要としないため経済的な施工が可能です。

環境性（eco）

既設構造物の処分を必要としない、環境に配慮した工法です。

施工手順

① 準備工（土砂撤去等）

② 調査工（ひび割れ・空洞調査）

③ 下地処理工（洗浄・目粗し）

④ ひび割れマーキング・測定工

⑤ ひび割れカット・充填工

⑥ 空洞削孔・注入工

⑦ 靱性モルタルライニング工

⑧ 撤去・清掃

⑨ 完了



① 準備工（土砂撤去等）



④ ひび割れマーキング・測定工



⑤ ひび割れカット・充填工



② 調査工（空洞調査）



⑤ ひび割れカット



⑦ 靱性モルタルライニング



③ 下地処理工（洗浄・目粗し）



⑤ ひび割れ充填工



⑨ 完了

※ ⑥空洞注入工は必要に応じて行います。

仕様

標準配合表

Type-C（ひび割れ補修用）

	A材（粉体）	B材（短繊維）	C材（混和材）	備考
1袋当りの標準配合量	10kg/袋	0.12kg/袋	3.0kg	見掛比重 1.7

Type-S（法面保護用）

	A材（粉体）	B材（短繊維）	C材（混和材）	水	備考
1袋当りの標準配合量	20kg/袋	0.25kg/袋	4.0kg	2.4±0.2kg	見掛比重 1.95